

座間市公共施設再整備計画  
市民シンポジウム開催結果

2019年8月

# 第1章 開催概要

## 1. 開催の目的

座間市の公共施設の多くは、昭和40年代から50年代に整備され、現在、一斉に建替えや大規模改修の時期を迎えています。座間市では「みんなで考える座間市のミライ」をテーマに、将来に向けた公共施設の在り方について市民の皆さんと考える機会として、市民シンポジウムを開催しました。以下の①～③は、シンポジウム当日の配布資料からの抜粋です。

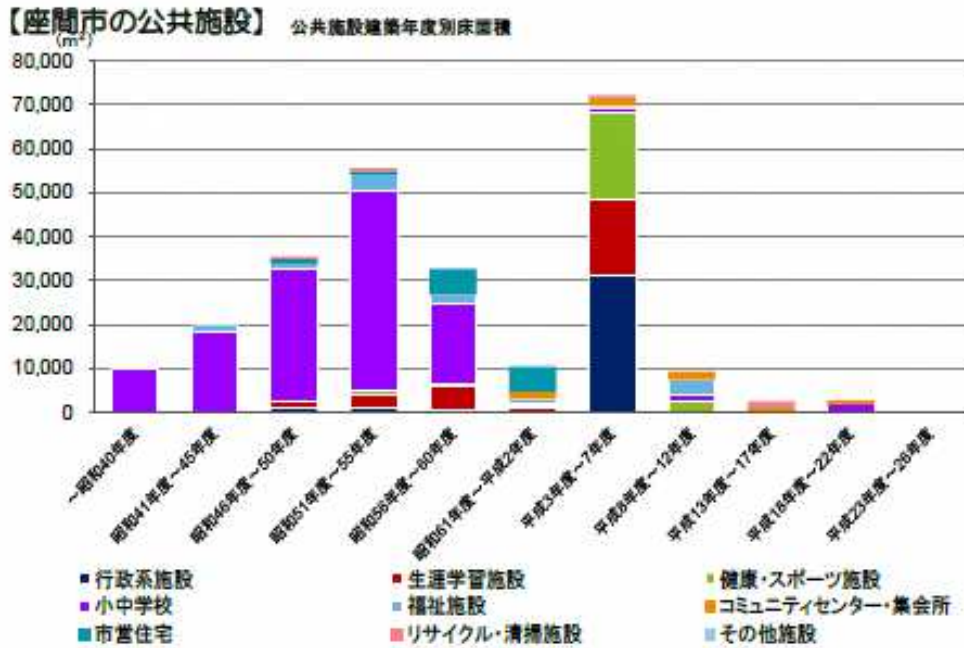
### ① 座間市の人口推移

全国的には、人口減少の傾向にあります。座間市の総人口は、従来の予測に反して僅かながら増加傾向にあります。しかしながら、年少人口（15歳未満）の減少は進行しており、平成17年の17,964人から、平成27年には15,849人となり、10年間で2,000人以上減少し、総人口に対する構成比率も14%から12%に低下しています。



### ② 座間市の公共施設の現状

座間市の人口が急増した昭和40年代から60年代に建設されたものが多く、市内公共施設の床面積比率で、50%以上が小中学校となっており、大規模改修、更新の時期を迎えています。平成に入り整備した市役所、文化会館等の核づくり構想で設置した施設についても、建築から20年以上が経過し、大規模改修等の時期を迎えつつあります。



### ③ 公共施設再整備に関する座間市の取組

現在、ほぼ全ての市町村において「公共施設等総合管理計画」を策定しておりますが、本市は国の要請に先んじて公共施設再整備計画（個別計画）に着手し、令和元年度内の策定を目指しています。

- 平成 25 年 3 月 「座間市公共施設白書」作成  
※本市が所有する公共施設の量、あらましを一元的に把握
- 平成 27 年 3 月 「座間市公共施設利活用指針」策定  
※施設の更新、維持に関する費用を試算し、業務の効率化と施設総量の縮減を提言
- 平成 28 年 3 月 「ざましアセットマネジメント基本方針」策定  
※本市における「公共施設等総合管理計画」に位置付けられるものであり、現状分析、課題の抽出、公共施設再整備に向けた方向性を示した。
- 平成 29 年 3 月 「座間市公共施設再整備計画基本方針」策定  
※施設類型ごとの個別計画に位置付ける「公共施設再整備計画」の基本方針を定めた。

## 2. 開催日時

日時	令和元年 8 月 18 日 14 時～16 時
開催場所	座間市役所 1 階市民ホール特設会場
参加者	116 名

### 3. 開催プログラム

項目	講演者等
○開会挨拶	座間市 遠藤三紀夫市長
○基調講演 『学校を拠点に考える公共施設のミライ』	千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 倉斗綾子 准教授
○ パネルディスカッション 『みんなで考える公共施設のミライ』	コーディネーター 千葉工業大学 倉斗准教授 パネラー 座間市 遠藤遠藤三紀夫市長 西中学校PTA会長 小林孝行氏 明治大学農学部学生 佐藤諒太氏
○ 閉会挨拶	座間市 小俣博副市長

#### 【基調講演・コーディネーター】

千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科

倉斗 綾子 准教授 （くらかず りょうこ）

#### 【プロフィール】

空間デザイン、建築設計、施設計画、コミュニティデザインなどの都市計画や建築計画を専門とする。

文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」、習志野市「学校施設再生計画（第二期計画）検討専門委員」など多くの委員を歴任。



## 第2章 開催内容

### ○開催挨拶（座間市 遠藤三紀夫 市長）

本日は多くの方にご参加いただき感謝申し上げます。本日の基調講演では千葉工業大学の倉斗先生にお越しいただきました。

市ではこれまで公共施設再整備計画の検討を進めてきており、市民の皆さんから様々な意見を付ける機会を設けてきました。本日は基調講演として倉斗先生の専門である学校施設を基に講演いただき、その後パネルディスカッションを行う予定です。

市長に就任して十数年となりますが、平成 20 年にこれまでの民間企業の経営者から市長になり、まず驚いたのは、行政には減価償却の考え方が無かった点です。本来、膨大な投資を行った際には減価償却を行う必要があります。

平成 22 年だったかと思いますが、秦野市が公共施設白書を策定した後に、座間市でも同様の取組を進めようと思い、職員により検討を行いました。

行政の中では減価償却の考え方はありませんが、将来に備え基金を設けて積み立てることがあります。一方でこれまでに整備された公共施設については、更新等は考えられていませんでした。例えば、高度経済成長期は、住宅において土地の価値を含めて右肩上がりになる状況でした。

近年、座間市では土地の資産価値が下落している状況ではありませんが、全国的には人口減少をはじめ土地の価格は下落傾向にあり、この際には将来に向けて減価償却して備えていくことが必要と考えています。

座間市では、出生数は昭和 40 年代と比べ半減しています。学校の児童数は昭和 56 年がピークであり、現在ではピーク時の約 6 割になっており、今後も減っていくことが想定され、将来に向けてリファイン、リプレイスして必要なものに投資していくことが必要と考えています。

近年は、英語教育や ICT など、高度な教育環境の整備が求められておりますが、旧来の施設を転用している状況にあります。今後はダウンサイジングしていくかも含めて検討が必要であり、本日は、基調講演を通じて今後の議論のヒントを得る機会にしたいと思います。

### ○基調講演：『学校を拠点に考える公共施設のミライ』（千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 倉斗綾子 准教授）

私は、元々は学校建築を専門として子どもの教育について研究を行ってきました。建築計画や施設計画を研究分野としており、近年は公共施設の中での学校の位置付けについて関心が移ってきています。

・近年、日本の総人口は減少しており、生産年齢人口も減少傾向にあることから、今後は厳しい財政状況が続くのではないかと思います。



・九段会館の天井崩落事故や茨城県鹿行大橋の崩落、笹子トンネルの崩落事故、習志野市のホール天井崩落事故など老朽化などが原因で起こっており、これら事象は全国のどこでも起こりうる状況にあります。

・震度6以下の東日本大震災時に関東各地で使用できなくなった施設が発生していますが、これらの多くは地震が原因ではなく、地震が契機となって施設の老朽化状況が判明したものです。

・私が公共施設マネジメントに関わり始めたのは、秦野市の公共施設マネジメントの検討の際に学校の専門家として委員に就任したのがきっかけです。秦野市では今後施設を維持・保全していくためには、現在施設総量から約31%縮減していく必要があると試算していました。また、全施設の66%が学校施設であったため、学校を拠点として公共施設の再編計画の妥当性を検討することになりました。

・秦野市の方針は、「新たな公共施設を整備しない」、「最優先する施設の機能、義務教育、子育て支援、行政事務スペースなどを設定」することで、15のコミュニティ単位で拠点形成を検討しました。

・秦野市では具体例を示すためにシンボル事業を検討しました。しかし、東日本大震災後の整備費の高騰などもあり、シンボル事業となった複合化検討はうまく進まなかったと聞いています。

・秦野市の後にさいたま市の公共施設マネジメントの検討に関与しました。さいたま市では人口が増加しているイメージがありましたが、少子高齢化が全国トップスピードで進行しており、市域が広いと、多くの課題を抱えていることが施設マネジメントを通じて判明しました。

・さいたま市の財政的な状況では、現在の公共施設のうち半分の施設しか維持できないことが分かり、さいたま市はハコモノ三原則、インフラ三原則を示しました。公共施設の新規整備は原則行わず、施設の更新の際は複合施設とすることにしました。その後、三原則を基にアクションプランを策定して、市民との協働を基に、わくわくする公共施設づくりをキーワードに検討を進めています。個別案件をテーマにワークショップを通じて行政が決めるのではなく、市民が検討を推進するように進めています。

・これらの事例から言えることは、公共施設マネジメントで学校が要ということです。今後は少子化が加速することが見込まれており、国は一学年2クラス以上が適正と定めていますが、平成28年度の段階で小規模校が45%であり、適正規模の学校は30%となっています。全ての学校を適正規模にするのは不可能であると思われます。

・文科省では廃校などの有効活用を推進していますが、これからはコミュニティスクールの推進で、地域や社会総がかりで子育て学びの支援を行うことが必要と考えます。



・文科省は地域振興と再生を目指した学校施設の複合化を推進するようになりましたが、その際には、学習環境の向上に資する複合化が前提となっています。

・学校を活用するメリットは、施設が巨大であり付帯施設や校庭などのスペースが十分にあり、また、コミュニティからのアクセスがよく、地域からの認知度がNO1ということがあります。

・公共施設マネジメント（ファシリティマネジメント）的視点で学校を見ると、他の公共施設にはない独自の位置付けであり、学校に触れずに公共施設の再編は不可能だと考えます。再編に当たっては、子ども達の教育の視点が重要だと思います。

・事例にみる学校の複合化を説明します。①足立区の小学校（保育園、子育て支援施設（子育てサロン））、②S区の小学校（保育園）、③下関の中学校（4つの中学校の統合計画、地域施設として開かれた施設）、④立川市の学校（公民館、図書館）、⑤渋谷区小中一貫校（2つの小学校、1つの中学校）⑥千代田区学校複合施設（小学校、幼稚園、児童館、図書館）⑦高田東小学校（被災地）などがあります。（事例紹介は割愛）

・公共施設再編の課題は、①所管などのすみ分け、②法制度に沿った整理、③セキュリティ対策などがあります。本質的なニーズを見据えた、新たな公共施設を検討する契機となり、そのチャンスは今しかありません。複合化に当たり、色を足す複合化ではなく、色を混ぜる複合化が必要であり、絵具に例えるとその混ぜ具合やグラデーションは、皆さまや座間市の地域性により様々な色が出せると考えます。

・これからの世代のために、明るい将来、わくわくするミライを見せることが重要だと思います。



○パネルディスカッション『みんなで考える公共施設のミライ』（コーディネーター 千葉工業大学 倉斗准教授、パネラー 遠藤市長、座間市立西中学校PTA会長 小林孝行氏、明治大学農学部学生 佐藤諒太氏（市内在住）

（倉斗氏）

・本日のパネラーの皆様から、基調講演の感想を含めて自己紹介をお願いします。

（市長）

・素晴らしいお話をいただきました。最後の絵具のグラデーションが、自分が想定していたイメージとぴったりでした。市で座間総合病院、ホシノタニ団地の公民連携の事例があり、異なる色を重ねるグラデーションの事例です。また、庁舎隣の上下水道庁舎でPFI事業を行っており、限られた人員の中で非常に大きい効果があったと思っています。



本日は学校施設の事例を見せていただきましたが、学校に限らず、地域のコミュニティを活性化する上で大きなヒントをいただきました。

(小林氏)

・職場は、庁舎隣のサニープレイスの社会福祉協議会に勤務しています。平成 16 年頃から消防団員になり、今後も続けていきたいと思っています。また、最近は地域活動や災害ボランティアなども行っています。



(佐藤氏)

・座間小学校、西中学校、海老名高校に通い、西中学校の時は生徒会長を務めていました。現在は、明治大学に通っています。最近、住民税を払える立場となりました。1 番目は親のおかげ、2 番目は座間の皆様のおかげでここまでやってこられました。先程の講演の中でもありましたが、地域の中で子育てを行う必要があると思っており、座間市ならできると思っています。

(倉斗氏)

・皆様それぞれの立場で、これからの街のミライを考えていった時に、御自身で何かできるかを教えていただきたいと思います。

(佐藤氏)

・ようやく支える立場になったが、子どもの頃に見守ってくれた大人の人達がいたので、それを見習い、行ってきたいと思います。

(小林氏)

・座間市のミライや今後について、バスケットボールクラブの活動や PTA などのメンバーでは話題にならない。自分と同じような世代に関心を持っていただけるよう働き掛けたいと思います。

(市長)

・市長に就任してから大きく変わったのは、行政の立場から地域を見るようになりました。この 30 年ほどで地域コミュニティの在り方が一変してきており、家族の構成も変わってきています。地域に対する帰属意識は低下しており、最近はスマートフォンで人とつながることができる時代になっています。

・震災時などはデジタル社会からアナログ社会に戻ります。そのような際に、人と人はどのようにあるべきか、地域の中でどのように暮らしていくべきかについて、現実に突き返されます。そのような中で、公共施設の老朽化にどのように向かっていくかが大きな課題と考えています。

・お金の問題ではなく、次の時代に向かっていくために、現在の状況を踏まえて在り方を考えて、多彩な色でグラデーションを創っていく必要があります。



(倉斗氏)

・今後、子ども達に何を残していけば良いか。大学で教員をやっていて感じるのは、まちづくりの際に、これから直近で大学生や高校生は社会の担い手になるのに、行政のイベントには子どもや高齢者は出てくるが、高校生や大学生が参加してこない。その世代に、地域に関心を持ってもらう必要があると思います。

(佐藤氏)

・これまでを振り返ってみると、座間に生まれて人に恵まれてきました。大学生の中には、都内では隣に住んでいる方の名前も分からないと言う友人もいます。支え合ってこれまでやってこれたので、座間市の市民性などの気持ちは大事にしていきたいと思います。

(小林氏)

・本日の登壇に関して、子どもに聞いたら興味がないと言われました。今の中学生や高校生など若い世代は今後の市をどうしていくかに関して興味がないことが問題だと思います。座間市は地域のつぼであり楽しいまちなのに、興味がないで片付けてしまうのはもったいないと思います。もっと子ども達がわくわくできる、今後の市のまちづくりについて考える機会があれば良いと思います。

(市長)

・現在は恵まれている状況かと思われ、そのため今後の危機感を皆が持っていないと感じています。今後は、その動機付けを行わなければならないと本日の意見をお伺いして感じました。

(倉斗氏)

・本日の意見をお伺いすると座間市はポテンシャルの高い地域だと感じました。学校を拠点とした地域づくりについて、座間市ならどのような学校づくりができるのか意見をお伺いしたいと思います。

(佐藤氏)

・学校を中心に家の近くに友達がいたら良い。住民参加型でいろいろなことができるかと思っています。

(小林氏)

・基調講演の中でいくつかヒントがあったが、学校づくりの検討の際にワークショップを行って地域ごとに複数年で検討していけたら良いと思います。

(市長)

・これまでの学校は、国の基準に基づき全て同じような学校を造ってきました。これからの学校は違うと思います。学校が地域や防災と密接に関連してくるので、今後多様性を持った活動ができるのではないかと本日の講演を聞いて感じました。

(倉斗氏)

・これまでの国の基準では、最低基準は満たせるが一律ではなく、座間ではどうなのかを検討する必要があります。近年、公共についての定義がこれまでと変わってきているかを感じていますが、これからの公共とは何かについてお伺いしたい。

(小林氏)

・参画になるかと思う。施設を使うにしても参画の意思が必要と考えます。

(佐藤氏)

・みんなで作り上げるものだと思います。

(市長)

・日本では、より開かれた地域のことを考える時代となっています。市民とともに公共をつくる時代となっており、それに伴いハードやソフトをつくり上げていく必要があると考えています。

(倉斗氏)

・これからは、自身が参加できる活動として公共があるとの位置付けが変わっていくと思います。今後の市民参画は意見徴収の形ではなく、ワークショップなどの対話の中で、多彩な色のグラデーションを創っていくこととなるかと思っています。以上でパネルディスカッションをまとめさせていただきます。

#### 【質問】

(参加者①)

・学校の見直しについて、コミュニティスクールがスタートラインかと思う。学校は先生や教育委員会のものになっているかと思う。市として今後どのようにしていくのか意見をお伺いしたい。

(市長)

・日本では教育委員会の存在があり、市から独立した存在です。また先生は、神奈川県職員の職員であるが、学校は市立であり、先ほどの話の中で出た防災の話とも密接に関連しており、地域社会の拠点になるかと思っています。学校を地域の拠点としていくためには、大きな合意形成が必要となってきます。



(参加者②)

・現在の座間市内では、市の文化や歴史を主張する施設は公民館の中の郷土資料室しかなく、極めて小さい施設であり市民にも存在を知られていない。子どもや高齢者の中でも座間市のことを知らない方も多いため、今後は郷土資料館のようなものをテーマに入れていただきたい。

(市長)

・この件については議会でも取り上げられています。私自身も市の外から来たので、郷土を知るために郷土資料館が欲しいと考えています。郷土史を後世に伝えていくことは重要ですが、就任した時点で、今あるものをどうしていくかの課題が既にあり、これらの課題を解消しなくてはならないことを御理解いただきたい。

(倉斗氏)

・他自治体でも郷土資料館があり、稼働率が低く廃止の対象となることも多いです。重要なのは文化や歴史を伝えることであり、伝えることハコを用意することではないと思います。ハコを整備することに考えが行きがちだが、今はソフトのことを多くできる時代なので、その点を踏まえ検討していく必要があると考えます。

○閉会挨拶（座間市 小俣博副市長）

・本日の講演の中でお金がないから再整備するのではなく、新しいカタチの公共施設を設ける今がチャンスであるとの言葉がありましたが、私も同様の考えであります。

・市では平成 28 年以降、公共施設再整備に関する検討委員会を 14 回開催してきました。職員の中でも各論となると反対する意見も多く、職員の意識改革も進めてきました。

・本市の公共施設が老朽化してきていることも事実であり、今後 20 年間放置すると約 389 億円が修繕や建替に必要と試算しています。限られた財源の中で、次世代の負担軽減を目指すテーマとして、良質な資産を残し、継承するためには、座間市の身の丈にあった検討や工夫を行っていきたいと考えています。

・公共施設再整備事業が進むと、修繕などで公共施設が長期間休館となる場合もあるかと思えます。御不便をおかけしますが、御協力をお願いします。

